



- 永代共養墓について
- ぶつぶつ雑記ブログ
- 真言宗について
- 金剛院イベント情報
- 金剛院 建築計画
- しいなまち・みとら
- 唱えてみよう!
- 仏教一年生
- 金剛院News
- メールを送る
- こんごういんキッズ!
- たいけんしてみよう!
- まんが小坊主くん!
- 金剛院について
- おすすめリンク集
- メディアで紹介
- 東京お寺めぐり
- ぶつムクイズ
- 金剛院の四季
- バックナンバー
- ほほほのれしび
- ふしぎな密教法具
- 地図・アクセス
- サイトマップ

 検索

エッセイ 仏教一年生

- 第37回 [「智の器」としてのお寺の面白さ](#)
- 第36回 [日食メガネと雨男](#)
- 第35回 [東日本大震災一周年に想うこと](#)
- 第34回 [インドマジックで被災地に笑顔を「2」](#)
- 第33回 [インドマジックで被災地に笑顔を「1」](#)
- 第31回 [井戸の話](#)
- 第30回 [五筆和尚伝説](#)
- 第29回 [縁の下をささえる人々](#)
- 第28回 [日本人、最高！](#)
- 第27回 [人間と占い](#)
- 第26回 [空海さんの謎](#)
- 第25回 [私の知らない私](#)
- 第24回 [記憶と感情](#)
- 第23回 [美人病にかかる\(後編\)](#)
- 第22回 [美人病にかかる\(前編\)](#)
- 第21回 [四億年の引きこもり](#)
- 第20回 [年齢を隠したがる人たち](#)
- 第19回 [若い時の苦労は買ってでもしろ](#)
- 第18回 [子離れの季節](#)
- 第17回 [35年目の回窓会](#)
- 第16回 [不老不死のお酒](#)
- 第15回 [アンチエイジング](#)
- 第14回 [女子力不足](#)
- 第13回 [仏のレッスン](#)
- 第12回 [母と子をつなぐ道](#)
- 第11回 [座敷わらし](#)
- 第10回 [夢のお告げ](#)
- 第9回 [犬に引かれて](#)
- 第8回 [生まれ変わり](#)
- 第7回 [お葬式の意味](#)
- 第6回 [不思議なご縁](#)
- 第5回 [生きるための勇気](#)
- 第4回 [祖母の形見](#)

仏教一年生

山田真美・著



作家、日印芸術研究所言語センター長の山田真美さんの連載です。

[プロフィール紹介](#)

第6回 不思議なご縁

BI 0 | m チェック | いいね! 0 | Tweet

あれは去年のちょうど今頃、仕事で南インドのバンガロールを訪れていたときのことで、街の一角に珍しいゾロアスター教の寺院があると聞き、訪ねてみることにしました。

ペルシャ(現在のイラン)発祥のゾロアスター教は、現存する世界最古の宗教のひとつで、火を神聖視することから「拝火教」とも呼ばれます。世界中の信者数を合わせても八万人から十万人とかなり小規模で、そのほとんどがインドで暮らしていますが、国際感覚と経営センスが抜群なため社会的な成功者が多く、たとえばインド最大のTATA財閥は代々ゾロアスター教徒が経営しています。ちなみに、私がインドでいちばん親しくしている女友達(エアインディアの客室乗務員)もゾロアスター教徒です。

バンガロールでゾロアスター教の寺院を訪ねてみたのは、この宗教の経典を読みたいと思ったからでした。こう見えても私は高野山大学の大学院で密教を学ぶ現役の学生ですから、他の宗教についてもたくさん勉強し、きちんと理解しておく必要があるのです。

ところがゾロアスター教の経典は、ふつうのルートではなかなか目に触れる機会がありません。そこで、信者以外では寺院のなかに一歩も入れないという厳しい規則があることは知っていましたが、もしや図書館の資料だけでも見せてもらえないかしらと思い、まさにダメモトで訪ねてみたわけですね。

寺院に到着した私が物珍しそうに敷地内を歩いていると、黒い小さな帽子をかぶった紳士がすぐに近づいてきました。何かご用ですかと尋ねられ、私が用件を告げると、男性は不思議そうに目を見開いて言いました。

「ゾロアスター教の経典に関心があるとは、実に珍しい。普通の人は、我々の宗教の存在さえ知らないのですが……」

そこで私が、

「実は、インドにおける私の親友はゾロアスター教徒なんです。カイザードという名前、ムンバイに住んでいます。彼女には娘さんが2人いて、長女のパールちゃんとは日本でもマジックを披露したこともあります。そのときにマジックショーをコーディネートしたのが私

- [第3回 ありがとうの輪](#)
- [第2回 お釈迦さまのお顔](#)
- [第1回 算数と仏教](#)
- [仏教一年生 山田真美・著](#)



で……」

と告げかけたところ、彼は私の言葉をさえぎるようにして、こう答えたではありませんか。「いやあ、驚きました！ 私は仕事の都合でバンガロールに住んでいますが、もとをただせばムンバイの人間です。パールちゃんのおうちと私の家は、お隣同士なんですよ！」

これには私も心底ビックリしましたが、この不思議なご縁のおかげで、普通なら異教徒は入れてもらうことができない図書館に入れてもらい、司祭から『アヴェスター』（経典）を贈られ、沈黙の塔（ゾロアスター教徒が鳥葬のために使う施設）のすぐ脇まで訪ねることができたのです。「ご縁」というものの凄さを強く感じた一件でした。

さて、そこで私は思うのです。この「ご縁」というものは一体何なのだろうか、と。

おそらく皆さんにも経験があるのではないのでしょうか。たとえば、長いこと逢っていない友達のことを考えながら道を歩いていたら、なぜかその人と思いがけなくバツリ出逢う。こういう体験を「偶然」と呼ぶべきか「必然」と呼ぶべきか、そのへんは意見の分かれるところでしょうが、人生にはとこところ不思議な“仕掛け”が隠されていて、思いもよらないところで「バツリ遭遇」となるのです。少なくとも私の人生では、昔からこの種の「バツリ」がよく起こります。

たとえば、あれはアメリカをドライブ旅行中のこと、ふつうの観光客が行かないような田舎町に立ち寄り、ガイドブックにも載っていない無名の小さなレストランに入ったところ、すぐ目の前にオーストラリア留学中に同じ町に住んでいた女性が立っていた、ということがありました。何年も逢っていなかった音信不通の相手と、地球のほぼ反対側でまさかの再会を果たしたわけです。

またあるときは、知人のSさんに急用があって電話をかけてみたものの、なかなかつながらず、（買い物が終わったらもう一度電話してみよう）と思いながら銀座の靴屋に入り、試着のためにパンプスを片手に椅子に座ったところ、隣の椅子にSさんが座っていたということもありました。

別のあるときは、山手線の最終電車に乗り、扉の近くに立ってふとイトコたちのことを考えながら窓の外を眺めていると、電車が駅に停まりました。ちょうどそこへ反対方面行きの山手線が入線してきたので何気なく視線をやると、ガラスを隔てた真向かいに、なんとイトコが立っていたではありませんか。こんな遭遇も、やはり「ご縁」のなせるわざでしょう。

インド最南端のケララ州を一人旅していたときは、観光客が立ち寄りたくないような辺鄙（へんぴ）な海岸を散歩していると、遠くからいきなりfrisbeeが飛んできました。そのディスクを追ってあわてて駆けて来たのは、意外にも日本人らしき男性。しかもその人は私を見るなり目を見開いて、「失礼ですが山田真美さんではありませんか。こんなところでお会いできるとは……。実は私、山田さんがお書きになった『マンゴーの木』を読んでハマってしまい、それが原因でこうしてインドに来たんです！」とおっしゃるではありませんか。日本から遠く離れたインドの最南端で読者さんに逢えるなんて、誰が予想できたでしょう。

書きはじめると切りがないので、このへんでやめておきますが、私の人生には、こうした「バツリ」がとにかく多いのです。これは一体どういうことなのでしょう。

こういうことが起こったとき、私たちはごく自然に「ご縁」という言葉を使います。例えば誰かと出会ったとき、あるいは誰かと別れることになったとき、何かを成し遂げたとき、何かを成し遂げられなかったとき、私たちはさまざまな場面で「ご縁があった」とか「ご縁がなか

った」という表現をします。すると、そこに至るまでにあつたさまざまな経緯も、長い歴史も、喜びも悲しみも憎しみも流した涙も何もかも、すべては「ご縁」という一言によって浄化されてしまうから不思議です。

“縁”という漢字は、「えん」「えにし」のほか、「ふち」「へり」とも読みます。人と人とのつながりは、まさにこの「ふち」「へり」の部分にこそあるのではないか。私たちは日頃、ともすれば物事の真ん中ばかりに注目し、端っこの部分はないがしろにしがちですが、生きてゆくということの本当の意味は、この「ふち」の部分大切に、味わうことなのかも知れません。

物事の「端っこ」を大切に。そうすることで初めて見えてくる、そんな幸福が「ご縁」ではないか。そんなふうに思う今日この頃なのです。



マンゴーの木—伝説の魔法使いをめぐる運命の輪
山田 真美
幻冬舎

[このアイテムの詳細を見る](#)

◀ [第5回 生きるための勇気](#) [第7回 お葬式の意味](#) ▶

山田 真美 (やまだ・まみ) プロフィール紹介

作家、日印芸術研究所言語センター長。密教学修士(高野山大学)。現在、お茶の水女子大学大学院博士課程後期在学中。1960年長野市生まれ。明治学院大学卒業後、ニュー・サウス・ウェールズ大学(豪)でマッコウクジラの回遊を研究。その後インド政府の招聘でヒンドゥー神話を調査研究。1996年より6年間ニューデリー在住。

主な著書にダライ・ラマ法王へのインタビューも収録した『死との対話』、ベストセラーとなった『ブースケとパンダの英語でスパイ大作戦』など。

訳書に第二次世界大戦の秘史を扱った『生きて虜囚の辱めを受けず』。

長年にわたりインドを日本に紹介してきた功績を認められ2007年、インド国立文学アカデミーより世界で3人目となるドクター・アーナンダ・クマラスワミ・フェローシップを受ける。

財団法人日印協会理事。日本文化デザインフォーラム、日本蜘蛛学会、宇宙作家クラブ会員。国立天文台広報普及委員会委員。

山田真美 公式ホームページ: <http://www.yamadamami.com/>



遠隔ヒーリングを無料体験

自宅で受けられる遠隔ヒーリング 10月17日開催分 申し込み受付中
blockrelease.netへ進む





© 2002-2016
真言宗豊山派 金剛院

- | | | | | | | | | |
|----------------------------|--|----------------------------|--|----------------------------|--|---------------------------|--|--------------------------|
| 永代供養墓 密厳霊塔 | | ぶつぶつ雑記ブログ | | 真言宗について | | 金剛院イベント情報 | | メールを送る |
| しいなまち みとら | | 唱えてみよう! | | 仏教いちねんせい | | 金剛院NewS | | おすすめリンク集 |
| こんごういんキッズ | | たいけんしてみよう! | | まんが 小坊主くん! | | 金剛院について | | バックナンバー |
| メディアで紹介 | | 東京お寺めぐり | | ぶつ仏クイズ | | 金剛院の四季 | | サイトマップ |
| | | ばばばのレシピ | | ふしぎな密教法具 | | 地図・アクセス | | |

もうすぐ、食えなくなる仕事

人から仕事を奪う3つの大きな原因とは? [directsales.jp](#)へ進む

